

季刊
4月・5月・6月



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

128

福島県立博物館

匠のふるさと会津



技と祈りの建築文化誌

平成30年4月28日(土)～6月24日(日)

匠のふるさと会津

技と祈りの建築文化誌

平成30年
4月28日(土)～6月24日(日)



越後・間瀬大工の道具 越後間瀬宮大工資料館蔵

福島県会津地方には住まいに関する独特の文化が育まれてきました。厩中門造りとよばれる曲屋の民家、一人前の職人のみが伝授された秘伝の巻物、性器をかたどった火難除けの呪物や儀礼などはその代表的なものです。また職人の使う道具づくりの鍛冶技術も大きく発展し、鋸鍛冶の中屋や刃物鍛冶の重房一門などの名工は、かつては全国にその名を轟かせました。県内外で活躍した屋根葺き職人の会津茅手かやてや、越後から来て名建築を多く手がけた越後大工などの職人の出稼でかぎにより、多様な文化も伝えられています。本展覧会では職人の技術や交流、儀礼や信仰などを通じて会津の建築文化に迫ります。

展示構成

I 木を伐り、家をたてる

山の神の祭祀者ヤマサキや木の伐り出し・加工を職分とするモトヤマ、木を刻み組む番匠ばんじょう(大工)まで、会津に特徴ある建築職人の姿を紹介する。

II 神に祈り、家をまもる

一人前の職人が伝授される巻物、棟木に掲げられる性器型の奉納物、家屋敷の方位から吉凶を占う家相図など、家を築き守るための儀礼と信仰に焦点をあてる。

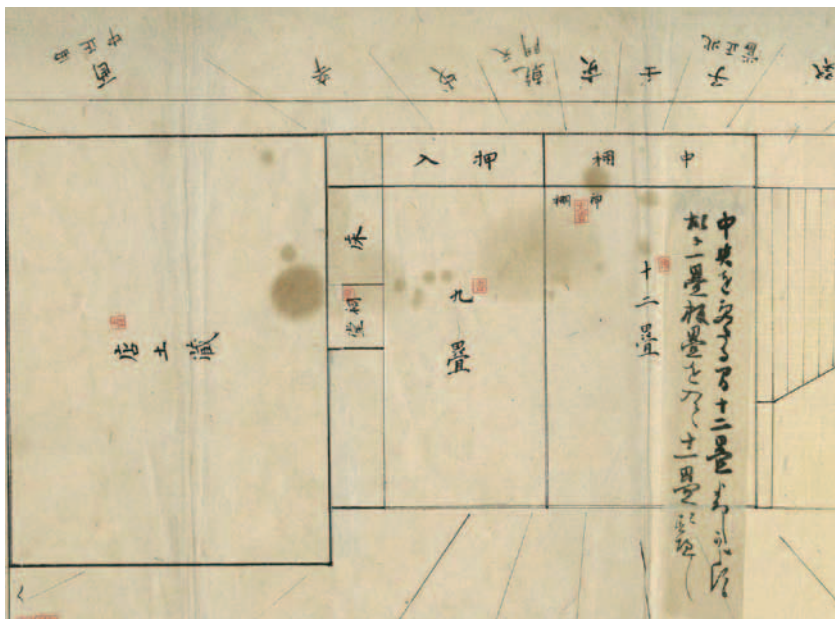
III 会津名工列伝

飯盛山のさざえ堂を建てた宮大工・山岸喜右衛門や鋸鍛冶集団「中屋」、会津刃物の隆盛を導いた重房一門など、江戸時代から名の知られた会津の名工たちを追う。

会場 福島県立博物館企画展示室
観覧時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
観覧料 一般・大学生500円(20名以上の団体は400円)、高校生以下無料
休館日 毎月曜日(4月30日は開館)、6月19日(火)
主催 福島県立博物館



上棟式の矢羽根(岩浅松石筆)個人蔵



家相図(明治19年・喜多方市)個人蔵

IV 屋根葺き集団 会津茅手

県内から関東にかけて多くの茅屋根を葺いてきた会津茅手の功績を、数々の資料から振り返る。

V 越後大工の活躍と会津

会津の民家や寺社などの名建築を生み出した越後大工の足跡を、道具や古文書などからたどる。

関連イベント

① 記念講演会(参加無料・申込不要)

「奥会津地方の建築儀礼と職人巻物」

日時 5月20日(日) 13時30分～15時
場所 当館講堂
講師 宮内貴久氏(お茶の水女子大学教授)

「越後大工の会津への旅立ち」

日時 6月16日(土) 13時30分～15時
場所 当館講堂
講師 中村義隆氏(新潟郷土史研究会・新潟文化財鑑賞会顧問)

② バスツアー(参加無料*昼食代のみ別途必要)

「知られざる会津の名建築をたどる」

日時 5月12日(土) 9時集合 場所等は申込時にお伝えします
講師 小澤弘道氏(福島県民俗学会副会長)
定員 20名 4月12日より電話・当館受付にて申込開始(先着順)

③ 体験イベント(一部有料・申込不要・当日随時受付)

「親子ものづくり木工体験」

日時 6月2日(土) 10時～16時
場所 当館実習室
講師 会津若松市建築業組合の皆さん

④ 展示解説会(企画展観覧料が必要です)

日時 4月28日(土)・29日(日)
5月6日(日)・13日(日)・26日(土)
6月24日(日)
いずれも13時30分～

場所 当館企画展示室
講師 当館担当学芸員



番匠巻物(三島町)個人蔵



鉈(重房作)個人蔵・山岸清次コレクション



モトヤマによる木の伐採

展覧会レポート

冬の企画展

山水憧憬

—雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ—

会期 平成30年1月13日(土)～2月18日(日)

主催 福島県立博物館

特別協力 東京国立博物館

冬の企画展「山水憧憬」は、東京国立博物館が平成29年度よりはじめた「収蔵品貸与事業」として開催しました。

東京国立博物館の収蔵品から日本美術の主要なテーマである「山水」を画題とする美術工芸品18件を展示。日本美術を彩る名品を間近にご覧いただきました。来場者からは「実物の素晴らしさ」への感動の声が多く聞かれました。

した。

会期初日に行った講演会「国宝とは何か—文化財保護・博物館・美術工芸品」では、東京大学の佐藤康宏先生にお越しいただき、私たちが先人から受け継ぎ、未来に伝えるべき文化財についてのお話をいただきました。展示室を会場とした講演会。本展のメインビジュアルだった雪舟の国宝「秋冬山水

図」の冬景を眺めながらお聞きする「国宝とは何か？」は、なんとも贅沢な時間でした。講演会は、誰もが抱くそのストレートな問いに端を発しながら、近代からの日本の文化財行政の在り方をたどりました。日本の宝である文化財を未来に残すために私たちには「活用」と「保存」の二つのバランスが必要であるというご指摘も印象的でした。

企画展にあわせて、当館が収蔵する山水を画題とする美術工芸品もテーマ展「けんばくの宝2017」で展示。企画展とあわせてご覧いただきました。「山水憧憬」展にも出品された福島ゆかりの画僧・雪村の作品をはじめ、県内でのような美術工芸品が生みだされてきたのかも概観できる展示でした。ここ数年に比べると雪の多かった今年。展示室内の山水の名品と、それに劣らぬ会津の雪景色の美しさを堪能してください。お声もありました。

東日本大震災から8年目を迎えた今年。いまだ課題を多くかかえる福島への支援として、当館での開催をご提案くださった東京国立博物館にあらためて感謝を申し上げます。日本人がどのように自然と向き合ってきたのか。本展は、日本美術史からそれをたどる展示でもありました。

(小林)



年間1,500円で何度でも 即日発行!!

福島県立博物館で

年間パスポート

はじまる!!

博物館を気軽に何度でも御利用いただけるように、4月より年間パスポートの発売を開始します。購入日より1年間、パスポートを御提示いただくと、常設展・企画展を何回でも御覧いただけます。趣味に、学習に、調査に、博物館をどんどん活用していただきたいと思ひます。ぜひ御利用ください。

お得な年間パス
ぜひ使ってね!



価格 1,500 円

有効期間 購入日より1年間

購入場所 博物館受付カウンター

- ※受付カウンターに申込書と代金をお持ちください。
- ※パスポートをご提示いただくと、常設展・企画展を何回でも御覧いただけます。
- ※福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。
- ※御本人以外の方は使用できません。
- ※代理の方による購入も可能です。
- ※御購入後の紛失等による再発行はいたしません。

平成30年度秋の企画展「戊辰戦争一五〇年」展調査から 会津藩の家老内藤介右衛門の手紙

歴史分野学芸員 栗原 祐斗

平成三〇年は、戊辰戦争から一五〇年の節目となることから、全国各地で明治維新や戊辰戦争を題材とした展示が開催されるようです。会津若松市に立地する当館でも、企画展を予定しており、調査を進めてきました。そこでは、展示予定の資料の中から一通の手紙をご紹介します。

慶応四年（一八六八）八月二三日、新政府軍が滝沢峠を越え、若松城下が戦場となりました。【写真2】は、まさにその当日に書かれた手紙で、家老の内藤介右衛門が、若年寄の倉沢右兵衛に宛てたものです。会津藩では藩境を防衛するために、各方面に陣將を配



写真1 明治初年の若松城
(国立公文書館蔵)

置していました。内藤介右衛門は、勢至堂以北の指揮を任された陣將で、福良村（現在の郡山市湖南町）に本陣を置いていました。おそらく、この手紙も福良村の本陣から出されたものでしょう。一方、倉沢右兵衛は前日の足取りから、中地村（同）にいたと考えられます。それでは、内藤が倉沢に出した手紙の内容をみてみましょう。

「今朝大手先（若松城正面）で合戦があつたと、若松より連絡がありました。よつて、兵卒たちを集まるように申し聞かせ、あなた（倉沢右兵衛）もすぐにこちらへ来てください（意訳）」。

この内藤の指示は、防衛のために展開していた兵を一度本陣に集め、若松城へ戻るためのものでした。

新政府軍が城下に侵入したとき、家老は各方面の陣將として配置されていたため、当時城中にいたのは梶原平馬のみでした。あとから西郷頼母が指揮に加わりますが、主力部隊の多くを各方面に割いた若松城が手薄であることになり、城外にいた内藤たち陣將は、主力

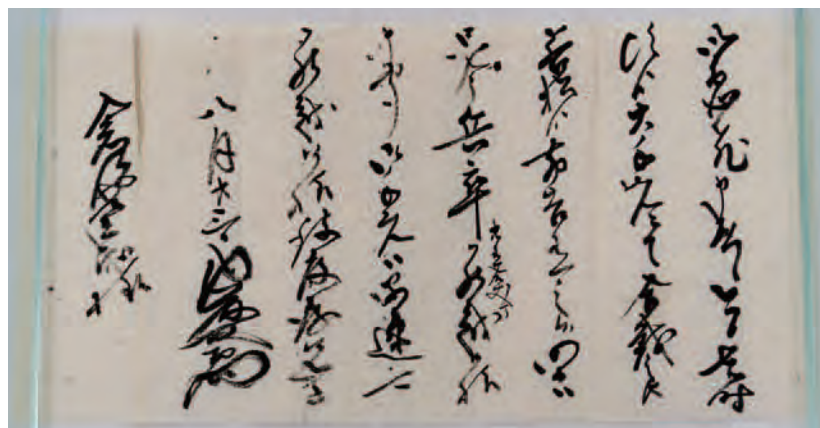


写真2 倉沢右兵衛宛内藤介右衛門書状(個人蔵)

部隊を率いて一刻も早く若松城に帰り、城の防衛にあたる必要があつたのです。

内藤指揮下の部隊は、背炙山を越えて進み、二四日に湯本（現在の会津若松市東山町大字湯本）に到着しました。湯本では大平口陣將の原田対馬率いる部隊と合流することができました。城の周りは既に新政府軍によって囲まれていましたが、二五日早朝に敵を北方面に誘い、隙を突いて入城することが

できました。このあと、籠城戦は九月二二日まで続きました。

今回ご紹介した手紙は、緊迫した内容もさることながら、内藤の筆遣いにも注目です。普段の筆遣いと違って乱れており、城下で戦闘が開始されたという報告を受けて、急いで手紙をしたためた様子が筆遣いからも窺えます。活字化された資料集はとても便利ですが、筆遣いまではわからないものです。こちらの資料は展示予定ですので、ぜひ会場で実物をご覧頂き、内藤の気持ちを感じ取ってください。

秋の企画展「戊辰戦争一五〇年」展は、平成三〇年九月一日～一〇月四日に開催予定です。会期中には、展示解説会や講演会なども計画しております。ご期待ください。



イベントレポート

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト
クロストーク
「語りがたきものに触れて」

日時：平成30年2月15日（木）
13時30分～15時
会場 福島県立博物館講堂

第1部 対談「レッツUDOK」

久保田翠氏
（NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長）
小松理虔氏（UDOKへキレキ舎主宰）

第2部 クロストーク「語りがたきものに触れて」

久保田翠氏 小松理虔氏・
赤坂憲雄（福島県立博物館長）



震災から7年を目前にひかえた2月15日。館長講座に代えて、赤坂館長が実行委員会委員長を務める「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」のクロストークを行いました。福島は復興が進む一方、風評被害、避難者の帰還、コミュニティ再建など今なお複雑な課題が残されています。

こうした複雑な課題を、これまで「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」に関わったお二人、久保田翠さん、小松理虔さんともにも考えました。久保田さんは福祉と文化芸術から、小松さんは地域にこだわる文化発信から、既成の枠組みをゆるやかに拡張する試みが続いています。

久保田さんは理事長を務めるNPOの活動を紹介しつつ、障害を「語りがたきもの」とされることの辛さと、だからこそユーモアをもって発想を転換することで共有したいと述べられました。小松さんは、いわきの現状から福島が「語りがたきもの」となってしまうていること、人が集う場の多様性の大切さを話されました。

参加者からは「話を聞いて良

かった」「震災、障害のことについてあらためて考えた」等の言葉が寄せられました。そしてこのような対話と共有の場を博物館に期待する声も多く見られました。びっしりと書き込んだアンケートも多く、参加者のみなさんはたくさんのご意見を受け止めてくださったようです。（小林）



企画展予告

美しき刃たち

— 東京富士美術館と

福島の名刀 —

平成30年7月13日（金）

～ 8月19日（日）

近年、若い世代からも強い関心を集めている刀剣。本企画展では、東京富士美術館（東京都八王子市）のコレクションを中心に、平安・鎌倉時代から江戸時代までの刀剣の優品約30振りを展示し、刀剣の美・見どころ・変遷をわかりやすくご紹介いたします。

また、県内の資料館・博物館が収蔵する福島県ゆかりの刀剣、刀装具を紹介し、刀剣と福島県の関わりを掘り起こします。当館初の大規模な刀剣展、ぜひ御覧ください。



重要文化財「太刀 銘一（福岡一文字）」

会場 企画展示室

企画展

企画展示室 一般大学生500円
高校生以下無料

匠のふるさと会津

— 技と祈りの建築文化誌 —

4月28日(土)～6月24日(日)

■記念講演会(申込不要、無料、講堂)

「奥会津地方の建築儀礼と職人巻物」

5月20日(日) 13時30分～15時

講師 宮内貴久氏(お茶の水女子大学教授)

「越後大工の会津への旅立ち」

6月16日(土) 13時30分～15時

講師 中村義隆氏(新潟郷土史研究会・新潟文化財鑑賞会顧問)

■バスツアー(要申込、定員20名、無料※要厚食代)

「知られざる会津の名建築をたどる」

5月12日(土) 9時集合

講師 小澤弘道氏(福島県民俗学会副会長)

■体験イベント(申込不要、一部有料、実習室)

「親子ものづくり木工体験」

6月2日(土) 10時～16時(随時受付)

講師 会津若松市建築業組合の皆さん

■展示解説会(申込不要、要企画展チケット)

4月28日(土)・29日(日)、5月6日(日)

・13日(日)・26日(土)、6月24日(日)

13時30分～

講師 担当学芸員

テーマ展

部門展示室 常設展示料金

ふるさとの考古資料

【榎葉町歴史資料館】移動展

～5月20日(日)

祈りのふくしま

4月28日(土)～7月8日(日)

ポイント展

総合部門展示室 常設展示料金

築城四五〇年会津の向羽黒山城はどんな城?

4月3日(火)～9月30日(日)

日本遺産!会津三十三観音と御詠歌
日本遺産!安積疏水ができるまで

4月3日(火)～H31年3月31日(日)

戊辰戦争ピックアップ1 西郷頼母の戦略談

4月3日(火)～4月27日(金)

ドウってどう使うの?—魚とりの道具たち—

4月13日(金)～6月20日(水)

ジオパーク関連展覧会

4月28日(土)～6月3日(日)

戊辰戦争ピックアップ2 磐城の戦い

4月28日(土)～6月1日(金)

戊辰戦争ピックアップ3 戦場のうわさ話

6月2日(土)～7月6日(金)

染型紙の世界

6月22日(金)～8月29日(水)

講座・実演他

★は要申込

【館長講座】(申込不要、無料、講堂)

「東北の文学者たち」各13時30分～14時30分

①吉野せい 4月19日(木)

②斎藤茂吉 5月17日(木)

③宮沢賢治 6月21日(木)

講師 館長 赤坂憲雄

【歴史講座】(申込不要、無料、講堂)

「戊辰戦争こぼれ話」各13時30分～14時30分

①西郷頼母の戦略談 4月14日(土)

②磐城の戦いと西洋医学 5月12日(土)

③戦場のうわさ話 6月9日(土)

講師 ①学芸員 阿部綾子 ②学芸員 田中伸一

③学芸員 栗原祐斗

★保存科学講座【要申込、15名、無料、視聴覚室】

「博物館の舞台裏」

「博物館でコレクションを保管する」

4月21日(土) 13時30分～15時

講師 学芸員 杉崎佐保恵

【美術講座】(申込不要、無料、視聴覚室)

「会津の仏教美術①②」各13時30分～15時

①5月11日(金) ②6月8日(金)

講師 学芸員 塚本麻衣子

★【実技講座】(要申込、10名、1000円、エントランスホール)

「須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう」

5月5日(土・祝) 13時30分～15時

講師 伝統技術保持者 大野青峯氏 大野久子氏

★【野外講座*共催事業】(要申込、43名、500円)

「高広山で化石をさがそう」

5月26日(土) 9時30分～17時

郡山市逢瀬町河内高広山林道

講師 学芸員 猪瀬弘瑛ほか

※小学校3年生以上(小・中学生は保護者同伴)

※申込先郡山市ふれあい科学館(0249360201)

【ミュージアムエデュケーター事業】

■ハニワ大王のギョラリートーク

「展示資料で見るふるしまの暮らし」

①着る 4月8日(日) ②食べる 5月4日(金・祝)

③住む 6月10日(日) 11時～12時、13時～14時

講師 学芸員 荒木隆

(申込不要、要常設展観覧料、総合展示室)

■ティータム考古学『考古学を読む』①

「紀元前後のポトビープル」

4月22日(日) 13時～14時

講師 学芸員 荒木隆(申込不要、無料、レストラン)

■石城・石背建国1300年記念連続講演会

シリーズ「ふるしまの新しい古代像を考える」①

「東北地方から福島県が独立した!」

— 石城・石背建国の背景 —

5月27日(日) 13時30分～15時

講師 学芸員 荒木隆(申込不要、無料、講堂)

【読み聞かせ】(申込不要、無料、体験学習室)

「博物館でも読み聞かせ①②③」

①4月14日(土) ②5月12日(土) ③6月9日(土)

11時～11時30分、14時～14時30分

講師 読み聞かせグループ

【特集展解説会】(申込不要、無料、企画展示室)

「山口弥一郎の見た三陸津波」

「古文書から見る災害」

4月1日(日) 11時～11時30分、13時30分～14時

講師 担当学芸員

【震災遺産が語るコト】

4月7日(土) 13時30分～14時

講師 担当学芸員

【実演】(申込不要、無料、エントランスホール)

「大堀相馬焼の絵付け」

6月17日(日) 13時30分～15時

実演 いかりや商店白河工房 山田慎一氏

【その他】(申込不要、無料、体験学習室)

「子どもミニミニ」博物館

4月28日(土)～5月6日(日) 9時30分～17時

ミュージアムイベント

「玄如節と日本の民謡」

6月23日(土) 13時30分～15時

(申込不要、無料、エントランスホール)

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。
*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

4月～6月の休館日

4月2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)

5月7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)

6月4日(月)・11日(月)・18日(月)・19日(火)・25日(月)

【お問い合わせ先】福島県立博物館
〒965-0807 会津若松市城東町1-25
Tel 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986
HP <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>
Mail general-museum@fcs.ed.jp